

# 中央区みらい協働プロジェクト 活動記録誌



令和4年3月  
中央区みらい協働プロジェクト実行委員会

## 中央区みらい協働プロジェクト実行委員会 実行委員長 小橋 隆司



「中央区みらい協働プロジェクト」は平成29年度からスタートしました。その中では人口減少、少子高齢化をはじめとする社会情勢を背景とし、それに対して3つのグループに分かれ、地域の課題解決や活性化に向けた具体的な事業の検討と実施を行いました。

実施した事業としては、中央区に関心をもってもらう「中央区民がさくら色でつながる日」や「さくら体操」の普及啓発。そして、地域を良く知る人物（＝トコロジスト）との交流により愛着を醸成し地域の担い手をつくるスタンプラリー「中央区ぶらさんぽ」の実施。地域の魅力を、市内の少年たちと共に効果的に発信する「中央区さくら咲くボーイズ39」により情報発信を進めました。

プロジェクト中期から始まった世界的なパンデミックにより、活動に制限がかかる情勢となってしまいました。しかし、グループリーダーをはじめ実行委員の熱意とアイデアにより取り組みを推進できたことに、私自身も大変勇気づけられました。実行委員そして関係者のみなさまも大変な時期であった中にも関わらず、ご協力をいただき本当にありがとうございます。

ビジネスの世界ではよく「会社は人」と言われることがあります。同じように私は「地域は人」と考えています。現在未だ落ち着いた社会情勢ではありますが、そのような中でも本プロジェクトのような新しい取り組みと、そこからできたつながりは、みらいの地域がよりよくなる力のひとつになると思います。改めて実行委員のみなさま、ご協力いただきました団体、区民のみなさまに感謝を申し上げますとともに、今後のみなさまの益々のご活躍を祈念して、あいさつに代えさせていただきます。

23	22	18	12	06	04	03	02	
中央区長あいさつ	各グループの取組み	広報宣伝部 活動紹介 リーダーあいさつ	担い手を増やすグループ 活動紹介 リーダーあいさつ	区への愛着を高めるグループ 活動紹介 リーダーあいさつ	中央区みらい協働 プロジェクトについて	中央区の区民協働事業について	実行委員長あいさつ	目次

# 中央区の区民協働事業について

平成24年度

## 中央区 魅力発信実行委員会

- ・「みんなで創る中央区の歌プロジェクト」をはじめ区民参加型のコンテンツを展開し、中央区の魅力を様々な媒体で発信

平成26年度

## 中央区 安全・安心と夢・希望の プロジェクト

- ・区内で活躍する様々な団体との連携を主軸として、「安全で安心して暮らせる」「夢と希望が持てる」まちづくりを目指して分野横断的な活動を展開

平成29年度

## 中央区みらい協働プロジェクト

中央区が捉える地域課題について、広く区民が参画し、その解決や活性化に向けた具体的な取組みを推進する

### 目指す姿

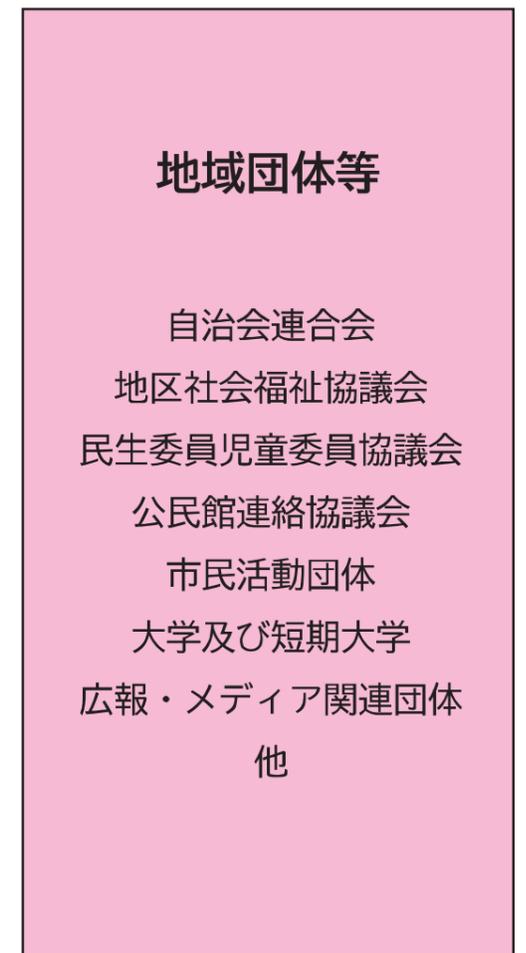
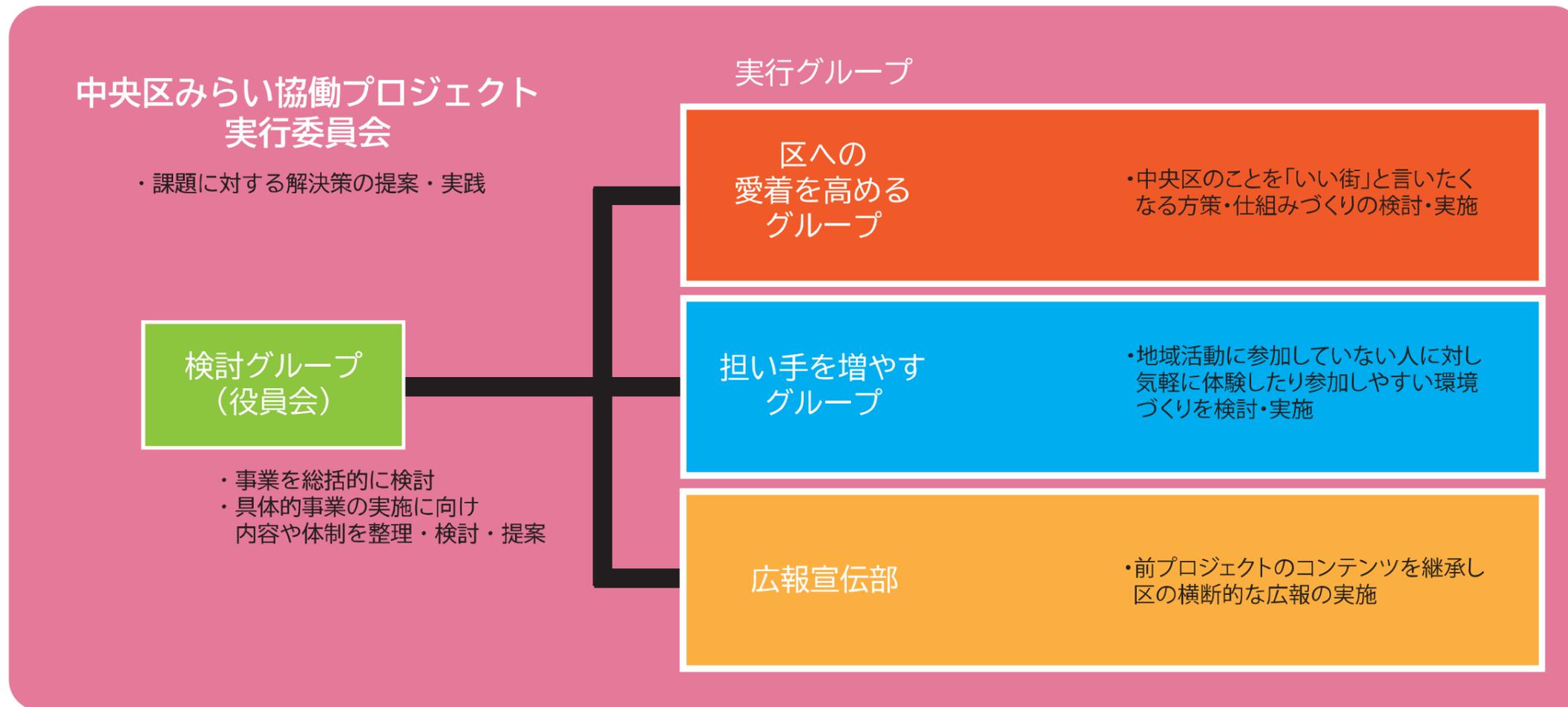
すべての人が区への愛着を持ち、  
様々な場面で交流し、活動している

区民が地域活動へ積極的に参加し、  
身の回りの課題解決に取り組む

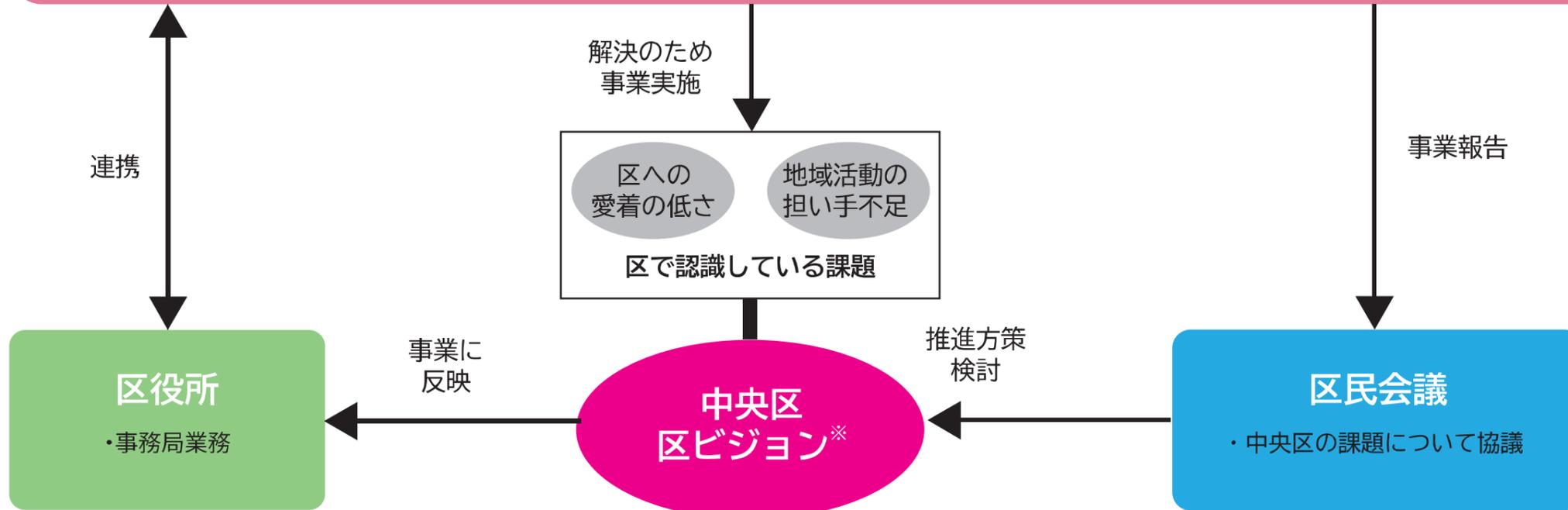
「中央区みらい協働プロジェクト」は、中央区が取り組んできた二つの区民協働事業の流れを汲み、平成29年度に設立されました。中央区における区民協働の先駆けとなったのは、平成24年度に設立された「中央区魅力発信実行委員会」です。この事業では区民相互の交流・連携を深め、区の一体感や区民としての意識の醸成を図るため、中央区の魅力を発見・創造し発信する取組みを推進。区内イベント時のブース出展やラジオ放送、「中央区の歌」の制定に向けた歌詞の募集などを行いました。

平成26年度には地域活動団体や市民活動団体の支援を強化し、区の地域課題の解決や活性化に向けた取組みを加速させるため、新たに「中央区安全・安心と夢・希望のプロジェクト」を発足しました。異業種交流や男女共同参画といった様々な視点で分野横断的な活動を推進しました。

続く「中央区みらい協働プロジェクト」では前身組織をさらに発展させ、区の地域課題に対して更に具体的な解決策を検討・実行することを活動目標に掲げました。プロジェクトの活動開始に先立って行われた市政に関する世論調査を踏まえ、「区への愛着の低さ」及び「地域活動の担い手の減少」という二つの課題を取り上げ、これらをプロジェクトで掘り下げていくこととしました。



参画



※令和2年度以降は中央区基本計画

中央区みらい協働プロジェクトのメンバーは、区内外で活躍されている地域団体等から参画した実行委員により構成されており、全員が属する実行委員会とプロジェクト全体の事業調整役の検討グループ(役員会)に紐づく3つの実行グループに分かれて活動を進めていきました。

また、活動の実効性を高めるため、各グループで新規事業を検討する際には①年度内に一定の成果を出すこと、②取組みを進める上で多くの人に関わってもらい仲間づくりのきっかけとすること、③様々な分野からの人材確保に努め、取組みに新しい視点やスキルを加えること——といった項目を念頭に置いて取組みを進めていきました。



▲青山学院大学応援団・吹奏楽バトントワリング部（写真右）や、SC相模原（写真左）の皆さんが出演する動画は市ホームページでご覧いただけます。

さくら体操の動画は市ホームページで公開中!



◀初めて開催したさくら体操講習会には、多くの皆さんにご参加いただき大盛況。講習会終了後には、修了証書の授与も行われました。



◀第45回相模原市民桜まつりのステージにて、「さくら体操」を初お披露目。観覧者にも一緒に体操をしてもらいました。



講習会終了後、平岡先生から修了証書授与!



ボーイズグループ「中央区さくら咲くボーイズ39」との共演で盛り上がりました。活動2年目となる平成30年度以降は、完成したさくら体操を広めていくための取組みにシフト。実行委員が自ら区内のイベントに参加し、さくら体操を披露しました。また、青山学院大学やSC相模原の皆さんにさくら体操に挑戦していただき、その様子を収めた動画をYouTube上で発信。より多くの区民の方に親しんでいただきました。

これらの周知活動と並行して、さくら体操を覚えた区民が「普及員」として自らさくら体操を広めていただくことを目指し「さくら体操講習会」を行いました。平岡先生のお手本動画を収めた教材用DVDの貸出しや、振付の図解を盛り込んだリーフレットを作成・配布するなどして、さくら体操の普及啓発に取り組みました。

**一体感を生み出す「さくら体操」**

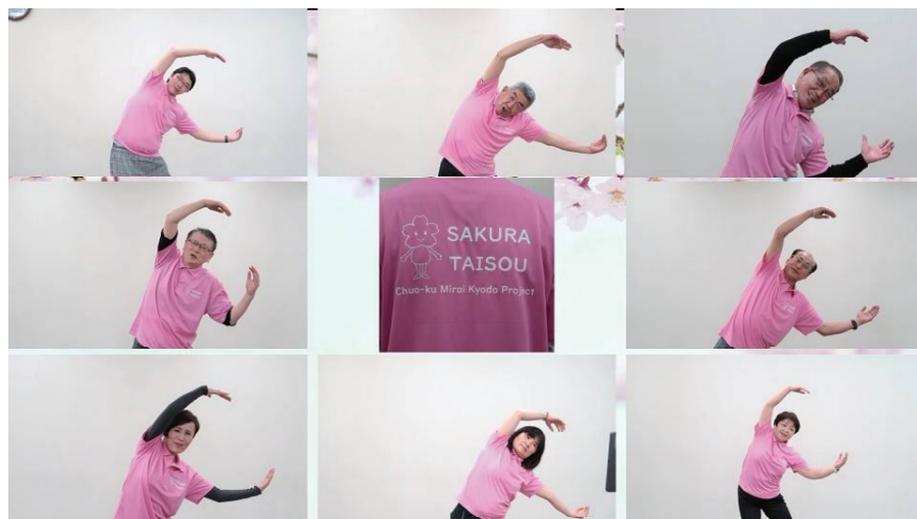
区への愛着を高めるグループでは、まず区民の皆さんに中央区民としての一体感を持つてもらいたいという想いから、区民にとってシンボリックな記念日を定めようと考えました。そこで、中央区のシンボルである桜にちなみ毎月3日と市民桜まつりの開催日を「**中央区民がさくら色でつながる日**」と定め、その日に一体感を高める活動をしてもらうことで、区民同士のつながりを強めていこうと考えました。誰もが気軽に取り組めるコンテンツについて議論を重ねる中、世代を超えて一緒にできるものとして「体操」というアイデアが生まれました。そこで、日本体操研究所の平岡亮一先生にオリジナル体操の作成を依頼し、「**さくら体操**」が誕生しました。

さくら体操の特徴は、過去の区民協働の取組みで完成した「中央区の歌」に乗せて、中央区ならではのユニークな動作をふんだんに取り入れている点です。JAXAのロケットを模した動作や、ラストの決めポーズ（中央区の頭文字「C」）などのキャッチーな振付を通じて、子どもから高齢者まで楽しく取り組めるものを目指しました。

さくら体操のお披露目は第45回相模原市民桜まつりのメインステージで行われ、グループメンバーと平岡先生が登場。広報宣伝部の

▶動画「おうちでさくら体操」の一幕。

▼動画「さくら体操 - 中央区とりもてでつながる編 -」では、委員による息の合った「C」ポーズ！



▲「さくら色でつながるレシピ」として作成された、さくら蒸しまんじゅう（写真左）とさくらいなり（写真右）。グループメンバーでの試食会では、委員お手製のさくらいなりが振る舞われました。

▶ひよこ保育園で行われたさくらいなり試食会の様子。子どもたちの笑顔が眩しいです。（ひよこ保育園提供）

さくら色でつながるレシピは市ホームページで公開中！



区への愛着を高めるグループ

(敬称略)

- リーダー 横山 房男 (相模原中央商店街協同組合)
- サブリーダー 清水 洋子 (相模原市私立保育園・認定こども園園長会)
- 岩本 一枝 (国際ソロプチミスト相模)
- 牛尾 良一 (相模原市自治会連合会)
- 大山 孝 (相模原市スポーツ推進委員連絡協議会)
- 河本 博 (相模原市自治会連合会)
- 小橋 隆司 (株式会社デスクル)
- 白石 一郎 (麻布大学)
- 高村 るみ (シティセールスサポーター)
- 山本 博之 (相模原市印刷広告協同組合)
- オブザーバー 平岡 亮一 (日本体操研究所)

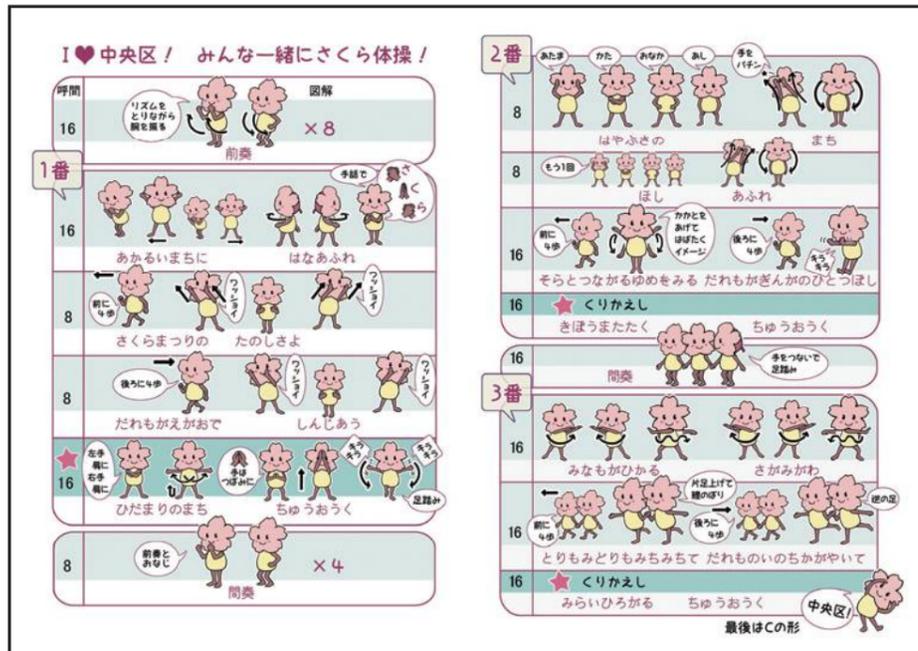
ニーズに沿った新しい啓発活動として企画されたのが「おうちでさくら体操」です。動画内には平岡先生による詳細な解説が盛り込まれ、家に居ながらにしてさくら体操講習会に参加できるような映像となりました。さらに、委員によるイベント出演に代わる啓発動画「さくら体操 - 中央区とりもてでつながる編 -」を作成。撮影は感染症対策のため一人ずつ行われましたが、互いのつながりを実感できる映像が出来上がりました。

イベント出演や講習会といった対面での事業展開を進めてきた愛着を高めるグループにとって、新型コロナウイルス感染症の拡大は活動に大きな影響をもたらしました。市民桜まつり等の大きな催しが中止となり、会議を開くこともままならない状況の中、世の中の

「コロナ禍でもつながりをリモートで行う」「さくら体操」

さくら体操の啓発を行う傍ら、中央区民がさくら色でつながる日に取り組むことのできる新たなコンテンツを検討しました。様々なアイデアの中から、家庭で楽しめるものとして採用されたのが「さくら色でつながるレシピ」です。レシピは桜の塩漬を使った色鮮やかな「さくらいなり」と、優しい味わいの「さくら蒸しまんじゅう」の2種類。親子で一緒に作ってもらえるようレシピカードを作成し市民若葉まつりで配布したところ、多くの親子連れに手に取っていただきました。また、区内のひよこ保育園では食育の一環としてさくらいなりの試食会が行われ、子どもたちが喜んで食べてくれたという嬉しい報告をいただきました。

食を通じて愛着を生み出す！「さくら色でつながるレシピ」



◀わかりやすいイラストを交えたさくら体操図解リーフレット。各地区で配布しました。



グループの活動を終えて

区への愛着を高めるグループ  
リーダー 横山 房男



平成29年から始まった中央区みらい協働プロジェクトに相模原中央商店街協同組合から参加しました。最初にグループの皆さんと話し合うなかで、区民の愛着を高めるためには区民としての一体感を持っていただくことが大事だということになり、「中央区民がさくら色でつながる日」をテーマに掲げ、区民の皆様と一緒にできるものとして「さくら体操」や「さくら色でつながるレシピ」を作成し、普及啓発活動を行ってきました。

講習会や地域のイベントで、区民の皆様と一緒に体操をしたときは、とても一体感がありましたし、講習会終了時に修了証書をお渡しした皆様には、達成感と同時に区への愛着を感じていただけたのではないかと思います。

SC相模原の選手や青山学院大学の学生の皆さんが体操を実施していただいたときは、私自身大変ありがたく、また、動画を見て感銘を受けておりました。

これまでの普及啓発活動を通して、少しでも区民の皆様への愛着やシビックプライドの醸成につなげることができていれば、これ以上の喜びはございません。

このたび、中央区みらい協働プロジェクトが終了することは大変残念ではございますが、これまでやってきたことを中央区役所に引き継いでいただき、一人でも多くの区民の方に、区への愛着を高めていただければと思います。

最後に、これまで様々な活動と一緒にやってきていただいたグループの皆様及び事務局の方々、また体操作成の際から大変御世話になりました日本体操研究所の平岡先生に、心より感謝申し上げます。

人々が集って行くものだけではなく、家族や個人としても取り組める事業となりました。(清水委員)

良きメンバーに恵まれグループとして良き事業ができたと思います。(大山委員)

「担い手を育てること」と「愛着を高めること」は区の協働の両輪であると思います。(白石委員)

参加によって自分自身における「ふるさとへの愛着」を再確認することができました。(高村委員)

▲上溝さくらまつりに出演し、住民の皆さんと一緒にさくら体操。桜の花に囲まれながら、多くの方にご参加いただきました。

委員より

▼市民若葉まつりでは、中央区さくら咲くボーイズ39と共演。



▶大野北地区にある史跡「縁切り榎（えのき）」の前で解説を聞く参加者。当日は希望制のガイドツアーも行われました。（第1回）



▼回ったスポットの数に応じて景品をプレゼントすることで、より多くのスポットを周遊していただきました。景品には地場産の卵や野菜などをセレクトし、ここでも区をPR。（第1回）



▶横山丘陵にある「照手姫伝説伝承地」で、トコロジストの解説に耳を傾ける参加者の皆さん。終了後のアンケートでは、トコロジストのお話が印象的だったと回答した人が多くいらっしゃいました。（第2回）

全4回のマップを市ホームページで公開中!



▲第1回中央区ぶらさんぽで参加者に配布したマップ。参加者はマップを頼りにエリア内を移動するため、イベントの要となるアイテムです。作成に当たっては何度も推敲を重ねました。  
 ▲参加者に配布した記念品（缶バッジ）。参加者の目印としても活用できるため、第2回以降も引き続き作成しました。

「人」と出会う地域めぐり

高齢化が進む昨今、地域の担い手の減少はどの地域でも喫緊の課題となっています。こうした状況を踏まえ、担い手を増やすグループではこれまで地域活動に参加する機会の少なかった住民がより積極的に、かつ気軽に地域活動に参加できる仕組みづくりを目指し、事業を検討していききました。

会議の場では様々なアイデアが挙げられました。地域歴史や文化にちなんだスポットを巡るスタンプラリーの開催について議論が深まりました。さらに、担い手を増やすというグループの活動目的を踏まえ、参加者に地域の名所・旧跡を知ってもらう際にその場所に詳しい人「トコロジスト」と交流する要素を加え、人との出会いを創出するイベントとして形がまとまっていきました。

トコロジストとは

場所「トコロ」と、「する人」という意味の「ジスト」を組み合わせた造語で、元・平塚市立博物館長の浜口哲一氏が提唱しました。ある特定の場所の動物や植物、地形や地質、歴史・名所旧跡・民俗伝承など幅広く総合的な視点で、その場所のことなら何でも知っている専門家のことを指しています。

散歩をするように楽しく参加して欲しいという想いを込めて名付けられた「中央区ぶらさんぽ」。第1回は大野北地区と田名地区で同時開催することとなり、各地区の自治会連合会長のご協力を賜りながらスポットの選定や協力者の募集などを進めていきました。

イベントの実施に当たっては、土地所有者や地域住民など多くの協力者の存在が不可欠です。そこで、グループではいかに「無理のない範囲で」「気軽に」協力していただくかを念頭に置き、①スタッフ向け事前説明会を自由参加とする（第1回）、②各地区個別に開催する（第2回）、③当日の流れなどを具体的に示したマニュアルを作成する（全回共通）——といった工夫により、協力者のフォローを丁寧に行っていました。そうした事前準備が功を奏し、当日は各スポットの協力者が参加者に向けて温かい飲み物や特別な展示物を用意してくださるなど手厚いご対応をいただきました。2地区で350名の方にご参加いただきました。また、参加者アンケートでは9割以上の方から「また参加したい」と回答を得られました。

各地区の個性が光るイベントに

平成29年度の第1回を皮切りに、第2回は上溝・横山・星が丘地区、第3回は小山・清

担い手を増やすグループ

(敬称略)

リーダー

石井 トシ子 (特定非営利活動法人男女共同参画さがみはら)

サブリーダー

竹田 幹夫 (相模原市自治会連合会)

福原 信広 (桜美林大学)

江成 二郎 (一般社団法人相模原市商店連合会)

加賀谷 育子 (相模原市公民館連絡協議会中央ブロック会議)

小林 充明 (相模原市自治会連合会)

小松 靖和 (相模原市商店連合会)

指原 慎也 (一般社団法人相模原市商店連合会)

佐藤 美紀 (和泉短期大学)

座間 千代子 (相模原市青少年健全育成組織連絡協議会)

篠崎 源一 (相模原市立小中学校PTA連絡協議会)

島根 裕志 (相模原市立小中学校PTA連絡協議会)

河本 真治 (桜美林大学)

高橋 年廣 (相模原市地区社会福祉協議会中央区連絡会)

芳賀 美栄子 (相模原市文化協会)

星 マサ子 (相模原市文化協会)

山田 光一 (相模原市公民館連絡協議会中央ブロック会議)

脇山 寿満子 (相模原市民生委員児童委員協議会)

平成29年度

河本 博 (大野北地区自治会連合会)

代田 修 (田名地区自治会連合会)

平成30年度

北川 春恵 (横山地区社会福祉協議会)

嶋田 虎明 (上溝を学ぶ会)

吉田 貴亮 (横山地区自治会連合会)

令和元年度

安藤 孝洋 (小山地区自治会連合会)

池田 弘幸 (清新地区自治会連合会)

柴田 文夫 (清新地区自治会連合会)

令和3年度

牛尾 良一 (中央地区自治会連合会)

割柏 秀規 (光が丘地区自治会連合会)

※過去に在籍されていた方を含め記載しています。

▼株式会社オハラの施設内で見学させていただいたガラスオブジェ。参加した子どもたちも大興奮。(第3回)



この日は、西町商店街のメンバー、実行委員、スタッフ、ボランティア、近隣自治会から出たメンバーが参加し、お楽しみ会を行いました。

9:45 実行委員、スタッフ、ボランティア、近隣自治会から出たメンバーが参加し、お楽しみ会を行いました。

10:00 実行委員、スタッフ、ボランティア、近隣自治会から出たメンバーが参加し、お楽しみ会を行いました。

13:00 イベント終了

中央区ぶらさんぽ 運営マニュアル

▲▶スタッフに配布した運営マニュアル。スポットごとのタイムラインを作成するなどして、初めてぶらさんぽに関わる人でもマニュアルを参照すれば流れがわかるような内容を心がけました。

替事業にシフトすべきかをギリギリまで議論しました。今までのように多くの人が集まることのできない状況下で、地域でのイベント開催に不安を感じるという意見もありましたが、人とのつながりが途絶えてしまった今だからこそ実地開催を望む意見もあり、協議の末、行政が示すガイドラインに則る形で「コロナ禍」でのぶらさんぽ開催に向けて動き出しました。

令和2年度に開催を予定していた中央・光が丘地区での第4回中央区ぶらさんぽは、新型コロナウイルス感染症の影響により延期を余儀なくされました。続く令和3年度も影響が残る中、グループでは実地開催をすべきか、動画作成などの代

コロナ禍による活動休止  
制限を乗り越えての実地開催

このように、「中央区ぶらさんぽ」は人と出会う地域めぐりという一貫したコンセプトのもと、開催地区によって個性の光るイベントとして育っていきました。

第3回では小山地区に位置する株式会社オハラ様のご協力のもと、建物内のガラスオブジェなどの見学をさせていただきました。これは地区と企業のつながりから実現したものであり、新しい関係性が生まれるきっかけとなりました。

第2回では企画段階から「上溝を学ぶ会」にご協力いただき、歴史にまつわるスポットを数多く選定。身近に伝わる歴史に触れた参加者・スタッフ双方から、「地元のことを知ることができよかったです」という声が聞かれました。

新地区と区内の地区を順繰りに回って開催実績を積み重ねていきました。

▶小山公園ニュースポーツ広場で従事してくれたボランティアの皆さんと記念撮影。第2回に引き続き、横山地区の若手ボランティアが参加してくれました。(第3回)



中央区ぶらさんぽ 参加者数と協力者数

第1回	参加者350名	スタッフ95名
第2回	参加者330名	スタッフ109名
第3回	参加者180名	スタッフ60名
第4回	参加者40名	スタッフ30名

(実行委員・事務局職員を除く)

グループの活動を終えて

担い手を増やすグループ  
リーダー 石井 トシ子



平成29年から始まった中央区みらい協働プロジェクトにNPO法人サーラから参加しました。

当時の佐藤区長からお声がけをいただきリーダーを引き受けてから月日が流れ、「中央区ぶらさんぽ」の最終回を迎えたことに感慨を覚えるとともに、頼りないリーダーの私を支えてくださった皆さまのおかげで楽しく活動できたことを嬉しく思います。

初回は、担い手を増やすにはどうしたら良いか、そのためには何をすべきかを皆で検討しました。その結果、担い手として活動していただくにはまず自分の地域の魅力を知ってもらう必要があると感じ、中央区内の9地区で順番にスタンプラリーイベントを開催していくことになりました。

第1回は中央区の中でも歴史のある、田名地区と大野北地区からでした。地域の皆様に「トコロジスト」のお願いに伺った際には、皆さま快くお引き受け下さり、また、イベント当日は回っていただく市民の方に誇らしげに説明をされている姿に感銘を受けたのを覚えています。

各地区の地区連会長、当日のスタッフとして参画いただいた団体関係者の皆様、公募ボランティアの皆様、中央区職員の皆様の支えにより、このたび全ての地区で「中央区ぶらさんぽ」を開催することができました。これまで関わって下さった全ての皆様に心より感謝を申し上げます。



▲(写真左) 光が丘公民館に設置された受付。地域の方にご協力いただきました。

(写真右) 隣接する青葉小学校ふれあい広場では、パークゴルフ協会のご協力により特設コースが設置され、子どもから大人までパークゴルフを楽しみました。(いずれも第4回)



▶陽光台1丁目公園の様子。青空の下、トコロジストが熱心に歴史を解説してくれました。(第4回)



人流を抑えるとともに参加者を確実に把握するため当日飛び込み可としていた参加形態を事前申し込みのみに限定したほか、開催時間の短縮やスタッフ数の削減などの厳しい制限下で行われた第4回でしたが、当日は晴天に恵まれ、40名の参加者に地区の魅力を伝えることができました。

「担い手」のタスキをつなぐ

「中央区ぶらさんぽ」は全4回の開催を通じて、294名ものボランティアスタッフの方にご協力をいただきました。トコロジストを引き受けてくださった地域住民の方、公募で手を挙げてくださった方——多くの方のご尽力のおかげで、区内の全地区で開催できたことに心から感謝を申し上げます。加えて、第2回では横山地区で活動するボランティアグループから若手ボランティアの参画をいただいたほか、第4回では初めてボランティア活動に携わったスタッフもあり、このイベントが若年層の地域活動への参画の機会となれたことにも大きな意義があったと思います。

「中央区ぶらさんぽ」に携わってくださった方のご尽力が、地域への愛着や地域活動への意欲となり、新しい地域の担い手にタスキとしてつながっていくことを心から願っています。

広報宣伝部

(敬称略)

- リーダー 山本 博之 (相模原市印刷広告協同組合)  
 大塚 則割 (エヌワイプロモーション)  
 小橋 隆司 (株式会社デスクル)  
 佐々木 亮一 (公益社団法人相模原青年会議所)  
 高橋 和也 (防犯エンターテイメント集団G I F T)  
 平岩 夏木 (株式会社エフエムさがみ)  
 船山 福憲 (株式会社タウンニュース社)

中央区さくら咲くボーイズ39

- |     |       |        |        |        |       |
|-----|-------|--------|--------|--------|-------|
| 1期生 | 阿部 大希 | 安藤 光汰  | 市ヶ谷 日向 | 井戸田 惺弥 | 荻原 利都 |
|     | 奥村 純  | 河 大星   | 草野 祐杜  | 竹内 柚月  | 谷山 蓮  |
| 2期生 | 大原 奨悟 | 後藤 亜斗夢 | 志村 幸祐  | 田尻 駿翔  | 細井 鼓太 |
|     | 山城 拓  | 横谷 琉聖  |        |        |       |
| 3期生 | 加藤 大志 | 植田 二友  | 中村 真   | 國島 飛翔  |       |
| 4期生 | 坂井 建斗 | 小野 純   |        |        |       |
| 5期生 | 久保田 翼 | 久保田 一冴 | 大町 泰生  |        |       |
| 6期生 | 奥山 晴大 | 前田 晴澄  |        |        |       |

※平成29年度以降在籍し、卒業された方も含め記載しています。



▶▶ イベント出演の合間には実行委員が講師となってボーイズの研修を実施。中央区のPRポイントを相互に発表しあったり、パフォーマンスの練習をしたり、熱心に取り組みました。



▶ 市民桜まつりのステージで、MINAMOTO JAMSの二人とオリジナル曲のダンスを初披露！

▼ 社会見学では相模原市議会と中央区役所を訪問し、議長と区長にそれぞれインタビュー。「相模原をより良い街にするために僕たちにできることはなんですか」など、積極的に質問をしました。



中央区さくら咲くボーイズ39  
 更なるパワーアップを目指して

広報宣伝部の主な活動は、小学生から高校生の男子で構成されたPRグループ・中央区さくら咲くボーイズ39（以下ボーイズ）による多面的な情報発信です。前身である中央区安全・安心と夢・希望のプロジェクト内で結成されたボーイズの資質と知名度の向上を目指し、みらい協働プロジェクトの活動当初から精力的にイベント出演やラジオ番組出演を行っていききました。

平成29年度には中央区出身のシンガーソングライター・MINAMOTO JAMSにオリジナル曲の制作を依頼し、ボーイズ自身が中央区をイメージして作詞したオリジナル曲『Chou Ou Ku』ぼくら大好きHappy Town』が完成。翌年度の市民桜まつりのステージで曲に合わせたダンスを初披露し、パフォーマンスに弾みをつけました。

また、ボーイズがもっと区の魅力を知るため、区内の様々なスポットを訪問する「社会見学」を定期的実施。相模原市議会、相模原消防署や業界の第一線で活躍する区内の企業を訪れ貴重なお話を伺いながら、学んだことをボーイズの目線で発信していききました。

▶上溝さくら公園の一角に植樹された桜の苗木はすくすく成長しています。訪れた際にはぜひご覧ください。



植樹を終えて桜の苗木と一緒に最後のCポーズ！



グループの活動を終えて

広報宣伝部  
リーダー 山本 博之



広報宣伝部では「中央区さくら咲くボーイズ39」の活動をメインに、中央区の魅力を発信する役割を担って参りました。

中央区の魅力を効果的にPRするため、今までとは違う角度からのアプローチを検討し「中央区さくら咲くボーイズ39」が誕生しました。当時のご当地アイドル全盛期で、身近な地元のアイドル達が地域振興の担い手として各地で活躍していました。その様子からヒントを得て、男の子だけのグループも「いいね！」となり、小学生から高校生までの男子グループを結成しました。

毎年募集と選考を実施し、第6期まで活動を続けて参りました。桜まつりや潤水都市さがみはらフェスタ等市内のイベントでダンスやパフォーマンスを披露し、FMHOT839のラジオ出演などで中央区の魅力を発信してきました。

最初は慣れないダンスやパフォーマンスに不安もありましたが、面接で泣いていた子が他の子にダンスを教えるまでに成長し、次第にボーイズとしての自覚も芽生え、生き生きと活動する姿がとても印象的でした。

活動を続けるうちに応援してくれる人も増え、ボーイズに会いに中央区に足を運んでくれるファンがつくまでに成長しました。

オリジナルCDの作成や中央区魅力PR動画の作成も行い、中央区の活性化に大きく貢献してくれました。社会見学として中央区の企業を訪問し、その様子を発信することでより地域とつながることもできました。また、他実行グループとも連携を図り、さくらレシピのPRやさくら体操の普及にも協力することができました。

残念ながら、ボーイズの活動は卒業という形で終了となりました。前プロジェクトを含め7年間の活動を終え、ボーイズをきっかけに本格的に芸能活動を開始した子もいます。様々な経験でボーイズ達は大きく成長しました。「中央区さくら咲くボーイズ39」で育んだ中央区への愛着を忘れず、やがてシビックプライドの担い手として活躍してくれることを願います。

最後に、一緒に活動したメンバーの皆さんの協力に感謝するとともに、中央区がますます魅力的な街となっていくことを祈念いたします。

ボーイズ出演の中央区PR動画はこちらからご覧いただけます



▲植樹の様子。中央区のシンボルである桜の苗木を心を込めて植えました。



◀▶中央区PR映像撮影の様子。区内の施設や小学校でロケを行いました。

中央区PR動画を制作

平成30年度には、公益社団法人相模原・町田地域大学コンソーシアム（さがまちコンソーシアム）の学生団体「さがまち学生Club」に委託し中央区のPR動画を制作。区の魅力を伝え、区民の皆さんに「ずっと住んでいたい」「住んで良かった」と感じてもらうことを目的に制作された動画は、ボーイズオリジナル曲をバックに区内の風景や人々の笑顔、ボーイズのパフォーマンスが詰まった魅力溢れる映像となりました。

桜を卒業記念植樹

長い期間に渡り活動を続けてきたボーイズですが、母体である中央区みらい協働プロジェクトの活動が終了することから、惜しまれつつも卒業することになりました。卒業記念として、上溝さくら公園に桜を植樹しました。実行委員が見守る中、出席した6名のボーイズが力を合わせて苗木を植えました。植樹した桜は「陽光」という品種で、ソメイヨシノよりも早く咲き、鮮やかなピンク色の大輪が咲くのが特徴です。今はまだ小さい木ですが、これから長い時間をかけて少しずつ成長していきます。みんなで成長を見守っていただけると幸いです。

## 各グループの取組み

- 区への愛着を高めるグループ
- 担い手を増やすグループ
- 広報宣伝部

平成29年度

- 8月 ボーイズ社会見学  
(議長・区長インタビュー)
- 1月 ボーイズ社会見学(相模原消防署)

- 2月 第1回中央区ぶらさんぽ開催

平成30年度

- 4月 さくら体操初披露  
(市民桜まつりステージ)
- 11月 さくら体操講習会
- 3月 さくら体操講習会  
さくら色でつながるレシピ公開
- 4月 ボーイズ4期生加入
- 4月 ボーイズオリジナル曲ダンス初披露  
(市民桜まつりステージ)
- 9月 ボーイズ社会見学  
(コジマ技研工業株式会社)
- 11月 第2回中央区ぶらさんぽ開催
- ボーイズ5期生加入

令和元年度

- 10月/11月 さくら体操講習会
- 12月 第3回中央区ぶらさんぽ開催
- 1月 ボーイズ社会見学  
(株式会社日本フードエコロジーセンター)
- ボーイズ6期生加入
- 5月 中央区魅力PR動画完成

令和2年度

- 3月 映像「おうちでさくら体操」  
「さくら体操 - 中央区とリモートでつながる編 -」完成

令和3年度

- 4月 卒業記念植樹式
- 11月 第4回中央区ぶらさんぽ開催

——中央区みらい協働プロジェクト活動終了——

## プロジェクトに寄せて

平成29年4月にスタートした「中央区みらい協働プロジェクト」では、区への愛着と区民の一体感を高める「さくら体操」の制作、地域活動参加のきっかけを創出する「中央区ぶらさんぽ」の開催や「中央区さくら咲くボーイズ39」による区の魅力発信など、区民の皆様と協働しながら、多岐にわたる活動を展開してきました。

新型コロナウイルス感染症の影響により様々な活動が制約される中、今できることを一つ一つ積み重ね、5年間の取組みを完結できたことは、携わっていただいた皆様のご尽力のおかげに他なりません。活動を通じて生まれた人と人とのつながりこそが、本プロジェクトや中央区にとっての最大の財産であると思います。

中央区では、本プロジェクトで生まれた様々なコンテンツと実行委員の皆様のご熱い想いを受け継ぎ、今後も地域課題の解決に向けて取り組むとともに、区民の皆様との協働を通じ、一人ひとりが自分らしく輝けるまちづくりを推進してまいります。引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、長年にわたりプロジェクトでご活躍いただきました実行委員の皆様、そしてご協力いただきました全ての皆様に心より感謝を申し上げます。



令和4年3月  
中央区長 田野倉 和美

中央区みらい協働プロジェクト実行委員会 活動記録誌

発行 令和4年3月

編集 中央区みらい協働プロジェクト実行委員会

(事務局 相模原市 中央区役所区政策課、地域振興課)

住所 〒252-5277 相模原市中央区中央2-11-15

電話 042-769-9801

FAX 042-757-2941



相模原市

中央区